

# LWC 指標で見る浜松市 —LWC 指標の活用のための考察—

2023 年 3 月

一般社団法人 しんきん経済研究所

## LWC 指標の概要

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート (SCI-Japan) は、2019 年から人間中心のスマートシティ・まちづくりの重要性を提唱し、市民の幸福感を高めるまちづくりの指標として、わが国独自の Liveable Well-Being City 指標 (LWC 指標) の開発・普及に取り組んでいた。今回使用した LWC 指標は、政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、地域における Well-Being を計測する指標として活用されることとなっている。

LWC 指標は、1) 主観的幸福感指標 (心の因子)、2) 活動実績指標 (行動の因子)、3) 生活環境指標 (環境の因子) の 3 つの領域に分類され、全体として 5 つの指標から構成され、以下の 6 を開発・導入の目的としている。

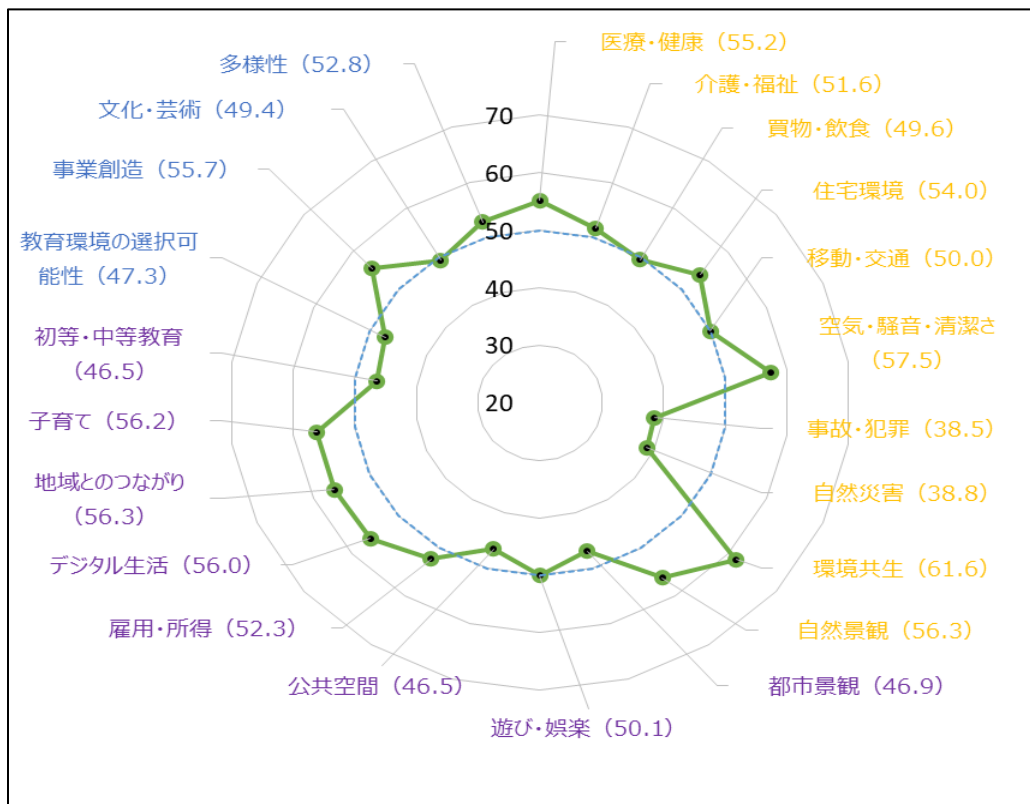
- スマートシティ・まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化
- 市民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を数値化・可視化
- ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出
- WHO 等の国際的な枠組みを導入
- 客観と主観データの両方を活用。無料でオープン化
- まちづくりの EBPM・ワイズスペンディングに役立てる

(SCI-Japan ホームページ <https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>)

## 浜松市の概要

人口	791,946 人 (2023 年 2 月 1 日)	高齢化率	28.2%(2022 年)
可住地人口密度	1,622 人/km <sup>2</sup> (2020 年)	昼夜間人口比率	99.3%(2015 年)
都市の特徴・ 周辺地域との関わり	市域が 1500 km <sup>2</sup> 以上もあるので、地区による市内格差は大きい。郊外型商業施設は広い圏域を持つ一方、市中心部の求心力は減退気味。周辺地域も含めて輸送機械のサプライヤーを中心に製造業が集積するが、脱炭素対応や海外生産の進展などもあり課題も多い。外国人住民は約 3.1%。		
将来都市像	2045 年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を将来に掲げる。ものづくりを中心に自立的な発展を遂げ、長期的な展望に立って、課題を認識した上で、希望に満ちた未来を創造するとしている。		

## 浜松市のLWCチャートの結果



- 「事故犯罪」「自然災害」以外は極端に低い指標がなく、全指標において平均的な値を示している。「事故犯罪」は交通事故件数が主因であり、市内を横断する高速道路や狭隘な山間部の存在が影響していると思われる。
- 最も値が大きい指標は「環境共生」であり、市として「SDGs 未来都市宣言」など環境宣言・政策を積極的に打ち出していることが評価対象である。一方で「ごみのリサイクル率」は偏差値46.9にとどまるなど、実感しにくい結果にもなっている。
- 浜松市は7つの区に分かれており、広大な森林面積を持つ天竜区が自然景観や環境などで貢献し、教育施設・医療施設が高度に集積している中区・東区などがそれぞれのカテゴリーで評価されたと思われる。しかし、当然ながら全ての市民の日常圏にそれらが全て揃っているわけではない。  
よって、LWCチャートから得られる浜松市像は「東西50km、南北70kmを超える広大な市域の中に、各カテゴリーでの評価ポイントを備えたエリアが多く揃っている都市」という理解が正しいのではないと思われる。

## LWC指標の活用について

LWC指標は客観的な事実（データ）を基にして Well-being の観点から、当該都市が置かれている相対的な地位を知ることができる指標である。ツールを活用すれば簡単にパソコンで出力できることも魅力である。また、採用されている指標が何であれ、同じ計測方法で調査を継続すれば地域の変化の方向が理解できる。

しかし、浜松市での例のように、この各カテゴリーの偏差値の集合体（チャート）を持って「これが〇〇市の姿」であると理解してしまうのは早計であり、「これから何をすべきか」という意思決定の情報としては不十分である。活用については、以下の点には留意すべきであると考えられる。

### ①相対的な視点

各指標は客観的データから算出されるが、評価は相対的である。高い数値（偏差値）であっても住民が満足できるレベルに達しているとは限らず、平均値から大きく離れていることを示しているに過ぎないのである。よって他地域と同じ指標の数値の大小を比較しても「優劣」「幸不幸」は判断できない。同様に偏差値平均を大きくしても住民の幸福度が向上するとは限らない。

偏差値は統計的処理の結果であって、「偏差値が高いこと」と「住民が幸福であること」に密接な関係はあっても、全くイコールであるとは限らないのである。

### ②物理的な視点

人口当たりの施設数の指標では、人口の集中地との距離（散らばり）は全く考慮されない。よって施設があっても住民のアクセスしやすさは一律ではない。ましてや、そこで提供されているソフトも一律ではないはずなので、住民にとっての利用しやすさという側面に注目しないで「施設の数を増やせば幸福度が向上する」という短絡的な議論は成り立たない。

### ③施策的な視点

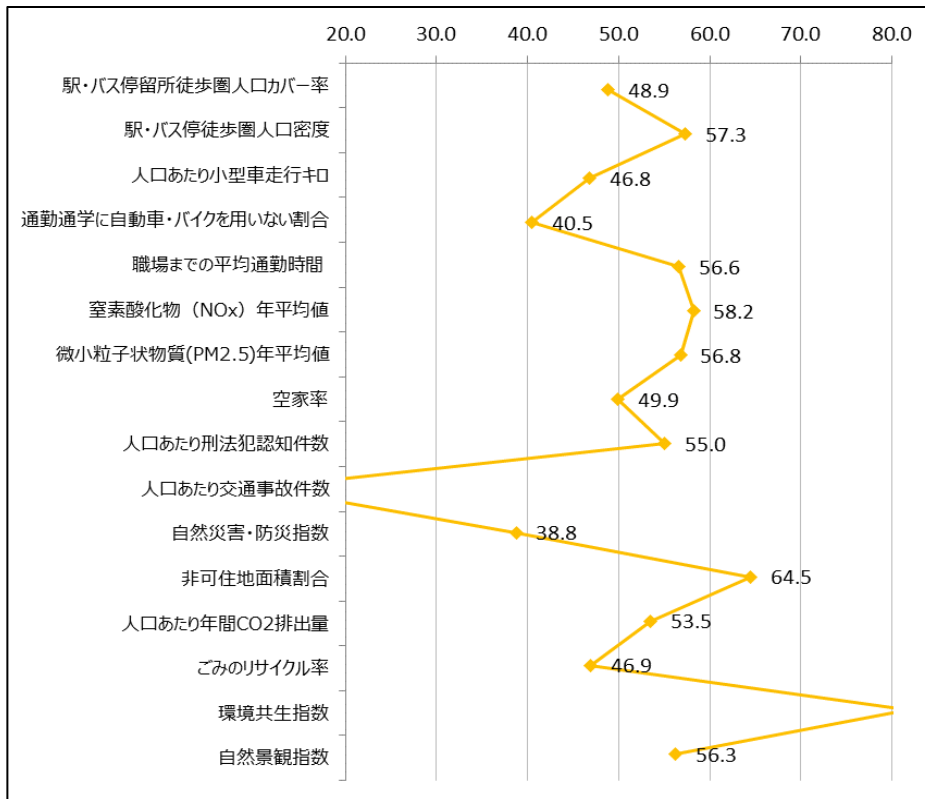
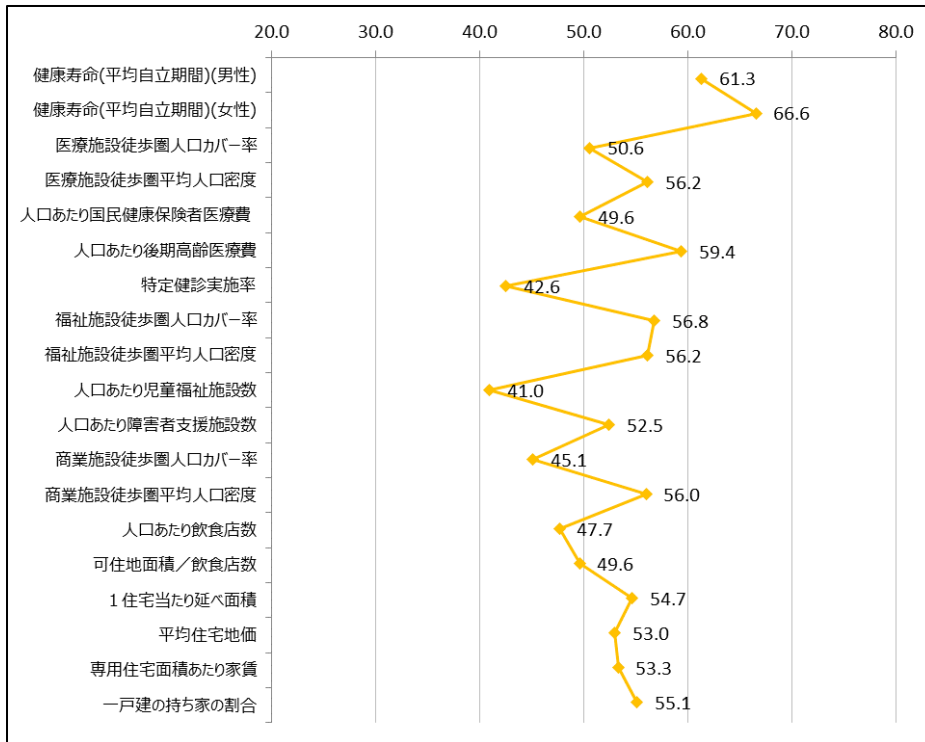
自治体が幸福度につながる方針（SDG s 宣言など）を打ち出していることを評価する指標では、その方針通りに具体的な施策が実施された時点で住民の幸福度向上が始まる。よって、施策の実施面についての考察も必要になる。いわゆる「グリーンウォッシュ」でも偏差値は上がるが、多くの場合、幸福度は上がらないことに留意する。

LWC指標は Well-being の観点から都市を評価するものであるが、あくまでも、幸福度を向上させられる素地やインフラなどが現時点で備わっているかについての評価である。現在の幸福度について「住民の肌感」により近いものを得るためには、住民の意識調査など、主観的な調査の併用が必要であると考えられる。

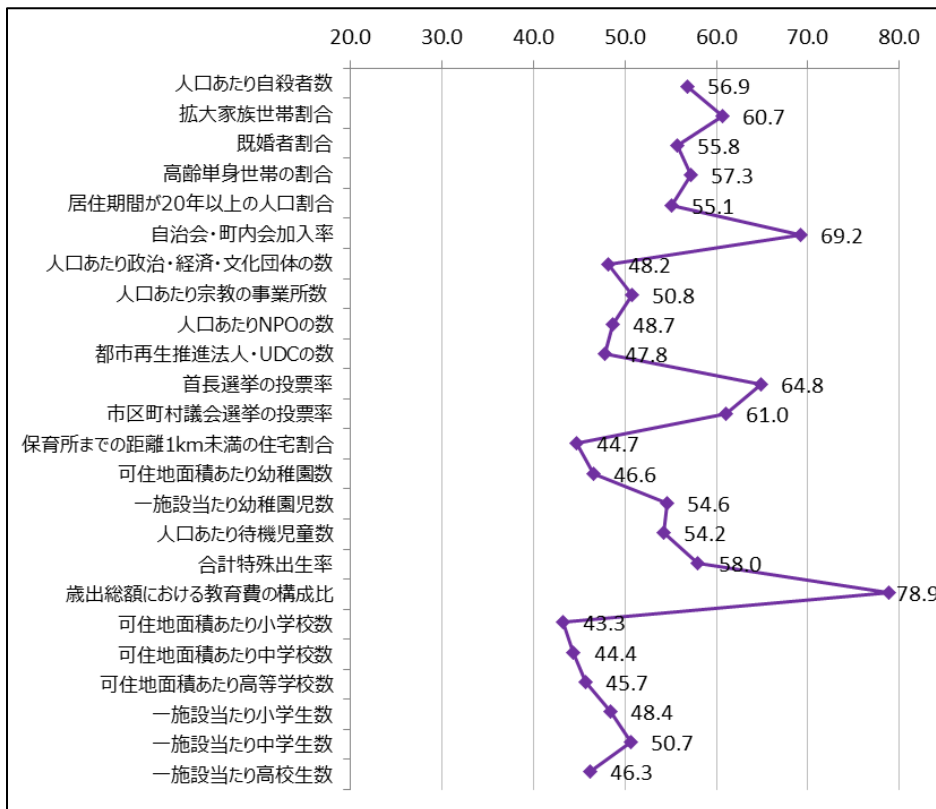
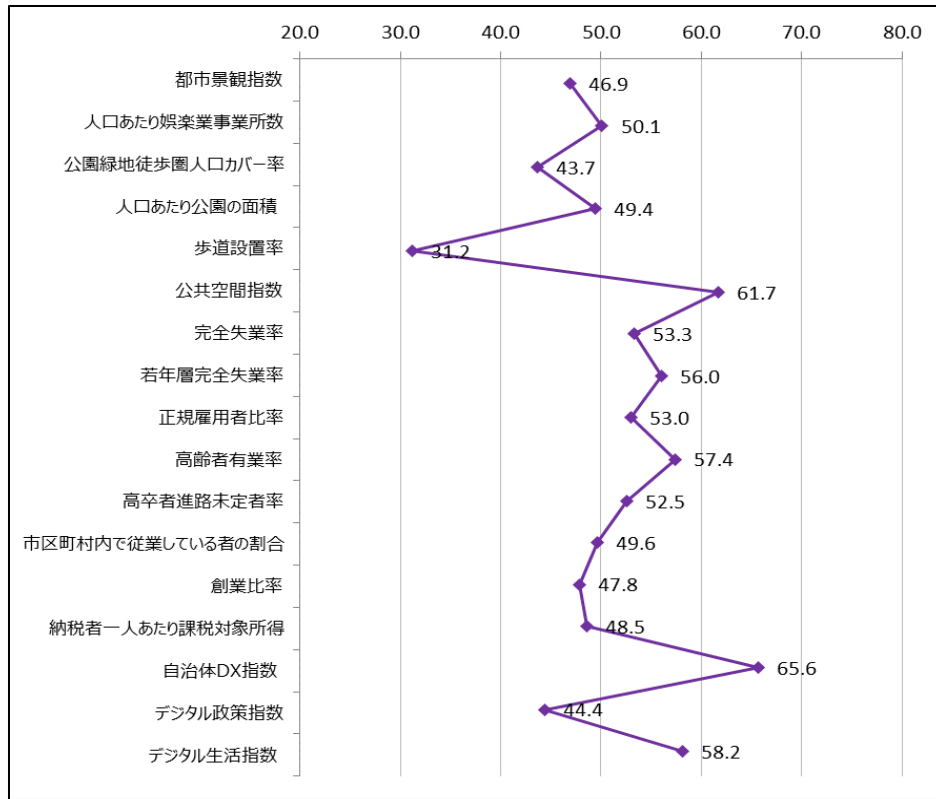
以上

資料

■浜松市：身体的健康に関する客観 KPI



■浜松市：社会的健康に関する客観 KPI



■浜松市：精神的健康に関する客観 KPI

